

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-144	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Genetic and environmental contributions to the association between attention deficit hyperactivity disorder and alcohol dependence in adulthood: A large population-based twin study.</p> <p>成人期の注意欠陥多動障害とアルコール依存症の関連への遺伝要因および環境要因の寄与：大規模一般集団の双子研究</p>		
執筆者		
Capusan AJ, Bendtsen P, Marteinsdottir I, Kuja-Halkola R, Larsson H.		
掲載誌		
Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 2015 Feb 25. doi: 10.1002/ajmg.b.32300. [Epub ahead of print]		
キーワード		PMID
注意欠陥多動障害(ADHD)、アルコール依存症、双子研究、遺伝学、環境		25711682
要 旨		
目的：		
<p>先行研究によると、注意欠陥多動障害（ADHD）はアルコール依存症としばしば併存することが示されているが、遺伝要因を含めると、この関連は未だ明らかになっていない。本研究では、成人の ADHD とアルコール依存症における、遺伝要因および双子における共有環境または非共有環境の影響について検討した。</p>		
方法：		
<p>スウェーデンの双子登録研究 STAGE(Study of Twin Adults: Genes and Environment)、42,582 人のデータを用いた。ADHD 症状に関する情報を提供した 18,167 人（男性割合 40.1%、平均年齢(男性 34 歳；女性 33.6 歳) を分析対象とした。卵性が不明であった 456 人を除いた 17,711 人の個人、12,291 人の双子（うち 5,420 組は完全な双子ペア）を双子の分析に用いた。アルコール依存症は 1,070 人であった。ADHD は、DSM-IV の 18 の徴候基準を使って 3 点以上を症状ありと評価した。アルコール使用障害は、SCID I (DSM-IV の構造化面接法) に基づいて評価した。双子の分析には ACE モデルを用い、遺伝要因(A)、共有環境要因(C)、非共有環境(E)要因の影響を検討した。</p>		
結果：		
<p>ADHD とアルコール依存症の間に有意な関連があった（オッズ比 3.58,95%信頼区間 2.85–4.49）。双子の分析により、共有遺伝要因は ADHD とアルコール依存症の併存の 64% を説明した。非共有環境要因は残りの 36% に寄与したが、一方で共有環境要因の寄与はほとんどなかった。ADHD とアルコール依存症の併存において、性別についての統計的な差は認めなかった。</p>		
結論：		
<p>成人期の ADHD とアルコール依存症の併存は、主に共有遺伝因子によって説明された。これは ADHD 患者におけるアルコール依存症リスクの根底にある性質を理解する上で重要であり、ADHD を有する個人とその家族がアルコール使用障害の予防と治療の重要な標的であることを示唆する。</p>		